

→二俣(7:50)→進行終了(8:35)→幕営地(10:00)

今日は早いうちに切り上げて帰る予定でこのニゴリ沢を選んだ。砂防ダムを建設した時に開かれた道をたどってヨロイ沢と加藤谷川の合流点に出、6:15進行開始。

ニゴリ沢出合までは平凡な川原歩きである。この沢は釣師がかなり入るようである。魚の影はあまり見なかったが、エサの箱やテグスを着いたリールなどがあちこちころがっていた。

6時30分、いよいよニゴリ沢の進行にかかる。出合から少し入った所に30mのこの沢一番の滝がかかる。下から見ると2段に見えるが、実際には3段である。左端の小流にそって登るのが一番楽である。ホールドに不自由することなく快速に登れる。中央部分も直登できるが、こちらはややホールドが少ない。

幸先がよいと喜んで歩を進めると、今度は連続する2つの滝である。左岸を直登できるが、我々がこの滝にさしかかった時、丁度朝日が真上からさして、何ともいえぬ味わいがあった。

この先はもう期待したほどのこともなく、平凡となってしまう、二俣へ。右俣には10m程の滝がかかるのが見えていたが、今日は左俣ということで先に進む。平凡な沢筋のまま登がかかってきたと思ったら、まもなく林道であった。進行終了8時35分。

(記・)

6. 飯森山群・大桧沢、湯ノ沢、熊沢

飯森山群は、我々としてはまだ足跡を記していない地域であったが、今夏初めて3本の沢の進行を記録した。あまり知られない山域であり、活字になった記録も少ないと思うので、山行になるようここに紹介する。

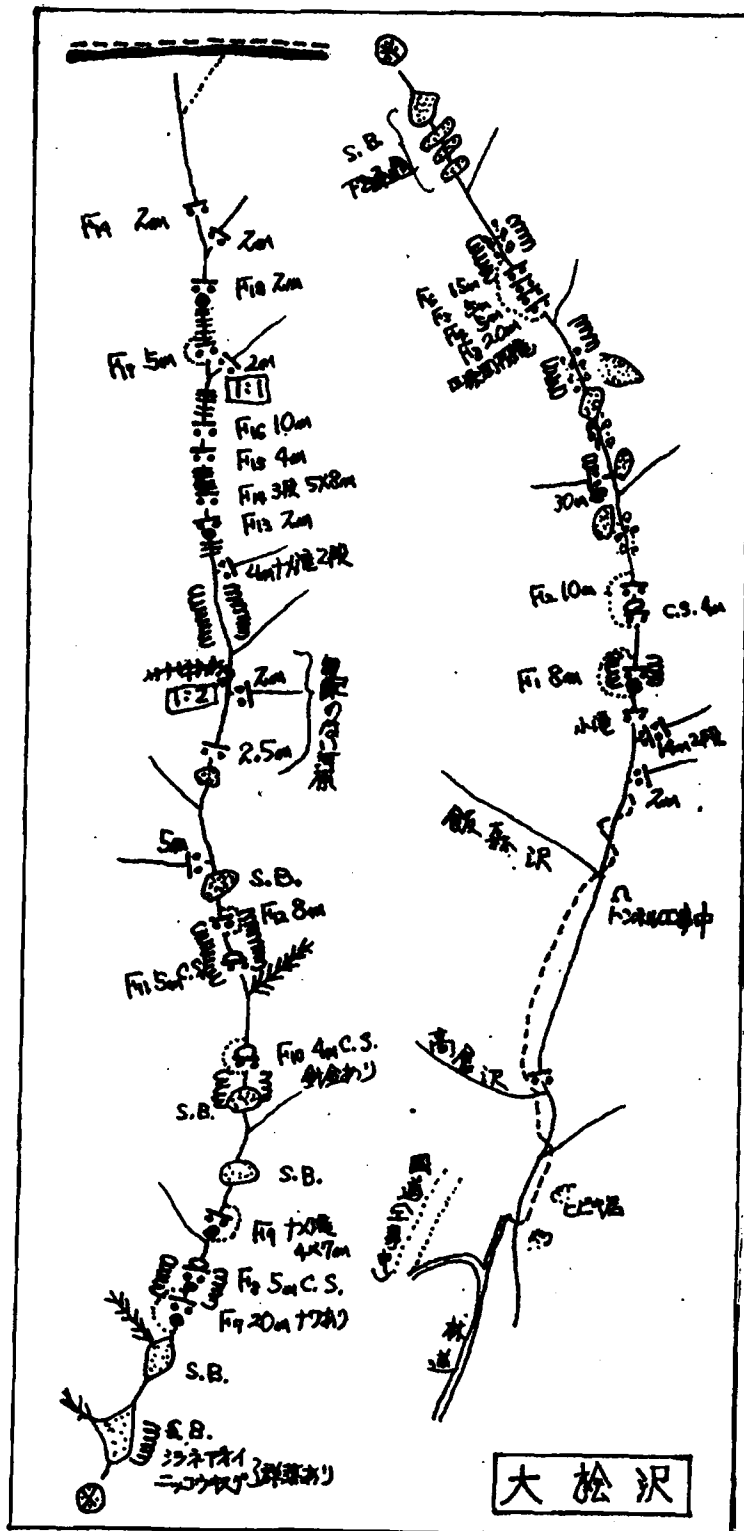
大 桧 沢

1984年7月28日

L

前夜は日中ダムそばにテントを張ってビバークした。6時30分ビバーク地出発。沢ぞいに林道を最後まで歩く。林道終点で右下に下り、大桧沢にかかる橋を渡る。このあたり国道の改修工事が盛んに行われていた。

飯森沢出合までは、沢ぞいにはっきりした道が着いている。飯森沢出合の少し奥に、かつては飯山キャンプ場があったとかで、今でも道の手入れだけは時々行われ



ているそうである。適
当に利用させてもらっ
て時間をかせぐ。

8:45道もついに途切
れたので、ワラジをつ
けて沢に入る。すぐに
左岸から支流が2本合
流する。2本目の支流
は2段の大きな滝をつ
け、水量も多い。

そのあと10分程で、
本流にも滝が出てきた。
小滝に続いてF₂ 10m。
釜をもち、兩岸が切り
立って小さなゴルジュ
状となっている。一見
すると右岸がへつれそ
うだが、滝のとりつき
部でハンクとなってい
て、直登は困難。右岸
を搦く。

すぐその先にも5m
のC.S.滝があり、その
上にF₂ 10m。C.S.は直
瀑で、直登は無理。ふ
たつあわせて右岸を搦
く。

この先は平凡な河原
が続く。前方から涼し
い風が吹いてくると思
ったら、雷瀑が出てき
た。この先しばしばス

ノーブリッジに出会うことになる。

右岸に30mの縄をかけて支沢が合流した先で、左岸が大きく崩れていた。スノーブリッジ上にはまだ大石がゴロゴロしている。崩れてまだ間もないところらしい。足早に通過する。

やがて四糸四段滝とかけられたプレートが出てきて、滝が4つ連続する所に出る。私と木村さんが右岸、西さんが左岸を捲く。私達は高く捲きすぎて、4つの滝をいっぺんに捲いてしまった。西さんの話では、2段目からは直登できたとのこと。しかし、私達は右岸に踏跡を見つけ、これをたどってきたので、これがこの滝の捲き道と思われる。

また河原がしばらく続くが、今度はスノーブリッジの連続。上を通ったり、下をくぐったりしながら越える。

12:20 F, 20mの直瀑。右岸の小さなルンゼを登って捲くが、ここに捨て縄があった。

沢が大きく左に曲がり、兩岸が切り立つ岩場となってきた。C.S.滝が出てきて、右岸の岩場をトラバース気味に登って越える。西さんが先に登って、ザックを吊り上げてもらい、私と木村さんは空身で登った。次のF₁ 8mは左岸を捲いたが、草付きの中にある岩がもろく苦勞した。

しばらく傾斜のない平凡な河原がづく。これでこの沢ももう終わりかと考えていたら、その先沢幅がかなり狭くなってきたあたりで、滝がいくつもかかるようになった。しかし、もう大きなものもなく、楽に越えてゆける。

最後の二俣を左に入ると、もう源頭部。1m程の幅しかなくなり、水も濁れる。左岸の藪にもぐりこんだら、すぐ登山道に出た。

【タイム】 日中ダム(6:30)→高倉沢出合(7:40)→飯森沢出合(8:00)→進行終了(15:00)

湯ノ沢

1984年7月29日

L

自分では飯森沢を下降するつもりで、8:00湯ノ沢の下降開始。10分程下った所に源頭が出てきて、ここでワラジをつける。すぐ10m三段の滝。右岸のブッシュを利用しながら下る。この先小さいが滝が次々とかかる。大部分はブッシュを利用して下ることができたが、5m滝ひとつは懸垂下降する。